

## 日野別堂

4月朔の聖人の御誕生日には御門主の広如上人が法界寺の有範堂へご参拝になったことは、今申し上げた通りですが、何分幕末から明治維新にかけて、世上も本山も多事でありましたから、それも途絶えたようであります。ところが、それを復活され、また有範堂を日野別堂と改めて、一層顕彰されましたのが、次の明如上人であります。

聖人ご誕生の5月21日に本山で降誕会を催されるようになったのは明如上人ですが、明治7年から日野に参詣され、また7月3日の有範卿のご祥月には、奥向から御代香を差し向けられました。そして、これが毎年の例となったのであります。

ところが、当時法界寺は寺領の上地等から財政に困り、御旧跡の維持も困難となっていました。そこで、これを本願寺の手で保存経営しようというように明如上人はお考えになったのであります。そして、法界寺との間に交渉が開かれましたが、明治13年の暮れにはだいたいの話がまとまりまして、書類とされています。

それによりますと、法界寺は先に広如上人が建立、寄付された仏堂や宝物並びに敷地を本願寺へ提供する代りに、金千円寄付して欲しいというのであります。そこで上人がお手元から千円支出されまして、ここに堂舎、宝物、敷地等が法界寺の手を離れて、本願寺に移ることになりました。そして、ここに初めて本派本願寺日野別堂と公称したのであります。

この敷地は2段7畝ばかりで、官有地でありましたので、この後何回か払い下げを願い出しましたが、簡単には認可されません。そこで、一時借地としたこともありましたが、この地の雑木を切り払ったりして、段々境内地を整備しまして、堂舎や書院のために使っていました。そして、明治33年1月ようやく払い下げを受けました。それで、南隣りの藪およそ4畝ばかりを開発しましたが、これは誕

生講の手でなされたようであります。

この誕生講と申しますのは、言うまでもなく、この御旧跡崇敬、お取り持ちの講であります。その起こりは幕末の文久(1861～)の頃から京都の同行の間に結ばれたもので、日野誕生講と申しました。初めは一つの講でしたが、明治になってから幾つかになり、また伏見や大阪あるいは神戸にもできました。この度のご誕生800年の改修で他に移されたようではありますが、この地にありました方3間の宝形造の宝物堂は、大正8年に矢頭某という神戸の議院が建てたものであります。

明如上人は日野別堂の顕彰に大変心を尽くされまして、毎年5月御参拝になりましたが、「その時は殊にご機嫌よく見えた」ということですし、「誕生講中から差し上げる栗飯をいつもご賞味になった」と申し伝えています。それで、別堂の改築もお考えになっていたようですが、色々の事情で果たされませんでした。  
(宮崎円遵)